

～ 人権・同和教育だより ～

「空に風 人に愛」

島根県立浜田高等学校
定時制・通信制課程

第6号 2020. 10. 30 (金)



< 人権・同和教育LHR >

定時制では、10月14日(水)、16日(金)に人権・同和教育LHRを実施しました。
各学年・部で実施した内容について、簡単に紹介します。

昼間部 1年	「自他の尊重と人間関係づくり（グループ活動）」 ①自分の「短所」をワークシートから3つ選ぶ ②自分の「長所」をワークシートから3つ選ぶ ③グループのメンバーの「長所」をワークシートから3つ選び、伝え合う ④ワークシートを見比べて、「短所」と「長所」は表裏の関係であることに気づいたり、自分の良さに目を向けたりする。
昼間部 2年	「あなたならどう伝える？」 『アサーション・トレーニング』（グループ活動）」 ①3パターンのロールプレイを見る （待ち合わせをした友だちが30分遅れてきたのに全く謝らない時、どう言うか） ②3つのタイプの自己表現、『アサーション』を知る A「ジャイアンタイプ」「いばりやさん」攻撃的な自己表現 B「のび太くんタイプ」「もじもじさん」非主張的（受け身的）な自己表現 C「しずかちゃんタイプ」「さわやかさん」アサーティブな自己表現 ③よりよい伝え方をグループで考える （試験前、友だちが「英語のファイルを貸して」と言ってきたら、どう言うか）
昼間部 3年	「差別意識の背景 ～部落差別の起源（中世～江戸時代）と現代の課題について～ ①ポイントを確認し、DVDを視聴する。 ・差別されていた人たちの社会の中での役割や職業を確認する ・なぜ一般民衆は差別したのか、そのメカニズムを考察する ・差別が固定化したのはいつ頃からかを知る ②DVDの内容を考察し、社会から排除した理由や差別の不合理について考える。 ③差別の背景を考え、差別の解消に必要なことについて理解する。 ④身近な場面での偏見や差別の意識や問題について、自分のこととしてとらえる。
昼間部 4年	「結婚差別について考える（グループ活動）」「就職差別について」 ①「結婚相手の条件10」を考え、グループで発表する ②ロールプレイ「結婚相手はどんな人？」を体験する 子どもが結婚相手を親に紹介する場面で 結婚相手が 外国人、同和地区出身、HIV感染者、無職、障がいのある人 の場合、 親の立場ならどう答えるかを考え、演じ、グループで話し合う ③結婚において大切にしたいことは何か考える ④就職差別についての振り返り（公正採用選考についてDVDを視聴する）
夜間部 合同	「ともに生きる社会を目指して」 ①DVDを視聴する 外見からはわからない病気や障がいのことや、外見からはわからない病気や障がいのある人がどのようなことで困っているかについて知る ②「ともに生きる社会」をつくるために必要なこと、私たちにできる配慮について考える

(裏面へ続く)

1学期同様、各担任や副担任の先生が中心となって授業を実施しました。DVD視聴、ロールプレイング、ペアやグループでの活動を通して、自分自身や人との関わりについて、振り返ったり改めて気づくことがあったりしたのではないかと思います。授業後にみなさんが書いてくれた感想から、いくつか紹介します。

昼間部 1年生

- ・クラスが違う子と一緒のグループになり、今まであまり関わりがなかったので、直感で思ったことに〇をしました。話を進めていく中で、自分と同じ趣味があったり、第一印象が変わったりして、とても楽しかったです。2年生からはクラスが合同になるので、今まで関わり合いが無かった人とも話せるように、人見知りを克服できたらと思いました。
- ・今回の学習を通して、普段あまり話さない人と話すいい機会になったので、これを機に積極的に話すようにしていきたいです。言ってもらった自分の良いところが、自分で思う短所を言い換えた部分も多かったため、短所を否定するのではなく、長所なのだとして肯定して、自信を持っていきたいです。そして、自覚のないところを言ってもらえたので、新しい発見ができて嬉しく思っています。

昼間部 2年生

- ・いつも感情的になってきついことを言うことが多いから、気をつけたいと思った。自分の嫌な行動とか人の話を聞かないことがあるかもと思った。
- ・自分は人に気持ちを伝えられないタイプなので、もやもやすることがよくあります。今日学んだように相手の気持ちに十分配慮しつつ、自分の意見もはっきり伝えられるようになれば、お互いに嫌な気持ちにならず、関係も長続きすると思うので、意識していきたいです。

昼間部 3年生

- ・今もなお部落差別をしている人がいるし、部落差別だけではなく、黒人差別や性差別などもあるので、そういう差別をなくし、格差のない社会ができれば良いと思いました。そして、もっと多くの人に、この差別の現実を受け止めてほしいと思いました。
- ・私が思っていたよりも前から差別が固定化されていたことがわかりました。自分のイライラをやわらげるためや、自分よりも下の人がいることで安心するからという理由で、差別するような言葉を言ったり手紙を送ったりする人がいなくなれば良いと思いました。正しい意味を理解して、差別する人が少しでも早く減れば良いと思いました。

昼間部 4年生

- ・今回の人権・同和教育で一番印象に残ったものは結婚についてです。私は結婚したいという気持ちがなく、今まで特に考えてみたことがなかったのですが、ワークシートでもし結婚するならば、と考えるきっかけができました。また自分が親の立場で子どもの結婚相手についてどう答えるか、というロールプレイングをしてみて、子どもの立場からでなく親の視点になって考えてみるという体験ができて、とても勉強になりました。
- ・子ども視点で見た時と、親視点で見た時、考えていることが違うと思いました。親視点でダメと言っても、子ども視点の時、結婚を否定されてしまうと悲しくなります。他の人ではなく、自分の気持ちを大切にしたいと思いました。

夜間部 合同

- ・困っている人がいて、気づけば助けようと思った。
- ・ヘルプマークとかつけている人がいたら、意識して行動する。困っている人がいたらすぐに気づけるようになりたい。

(生徒部 人権・同和教育担当：岡崎)

< 「いつも心にリスペクト」～自分にも 相手にも 個性にも 多様性にも 敬意を持つ～ > ～生徒部より～

JFA、Jリーグでは、サッカー・スポーツの社会的役割を強く自覚し、2008年度から、サッカー界における「リスペクトの重要性」を認識し『リスペクトプロジェクト』を始めています。「リスペクト」を「大切に思うこと」とし、サッカー界におけるリスペクトの認知の浸透に努めています。さらにサッカー、スポーツを越え、より大きな広がりを持てるようにしていきたいと考え、他競技・スポーツと関係のない分野にも関わりを持つことができ、多くの人々と出会いつながりを持てることが期待されています。

運動部や文化部などの部活動だけでなく、生徒会活動や委員会活動にも、授業中や休み時間などにも、定時制にも通信制にも全日制にも、浜田高校中の様々な活動や様々な場面で「いつも心にリスペクト」を持って行動してもらいたいと願います。「安全・安心・快適な」浜田高校を創造していくためにも「リスペクトの心」は人間関係づくりの最もベースとなるものだと思います。他者にもそして自分にも「リスペクトの心」を持って接していきましょう。

(生徒部 人権・同和教育推進委員：春木)